

## 99 名古屋大学プラズマ研究所 1961 - 1989

プラズマ研究所（プラ研）は、1961年（昭和36年）4月に設立されました。当時はまだ数少ない全国共同利用研究所で、名大スタッフだけでなく日本各地（さらには世界中）のプラズマ研究者がこのプラ研に集結し、共同して研究・運営が行われました。

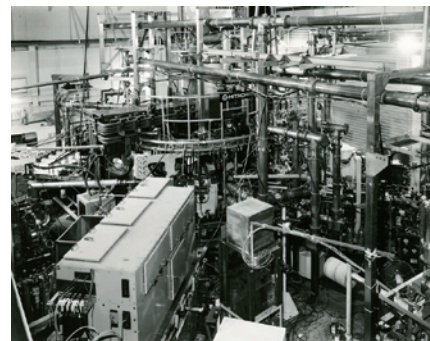
プラ研が設立されるにいたった背景には、核融合研究に関する当時の世界的なうねりがありました。1955年、国連主催の第1回原子力平和利用国際会議がジュネーブで開催され、「核融合反応をエネルギー源として考える方法も、おそらく20年で成功するだろう」というバーバ議長が発言は当時の注目をあびました。これを機に核融合技術に関する認知は一挙に世界的に高まったと言います。

こうしたことを背景に、1958年にはノーベル物理学賞受賞者で京大の湯川秀樹教授を中心に日本の核融合研究者の自主的組織「核融合懇談会」が結成されました。また翌年

には、日本学術会議に核融合特別委員会が設置されました。そこで核融合に不可欠のプラズマ科学を基礎的体系的に築き上げることを目的とした、文部省管轄の「プラズマ研究所」の創設が提案されたのです。

また並行して、研究所を附置する大学をどこにするか決定する作業も行われました。結果として、十分な敷地があること、プラズマ研究に深く通じた早川幸男教授（後の第9代名大総長）と山本賢三教授が熱心に誘致したことなどもあって、名古屋大学が附置大学に決定されたのです。1963年には本部棟が完成し、関係者を招いて式典が行われました。その式典参加者の方から、そのとき贈られた花瓶が大学文書資料室に寄贈されています。

プラ研ではとくに高温プラズマに関する研究が続けられました。1989年には核融合科学研究所に改組され、1997年には岐阜県土岐市に移転し現在に至っています。



1	2	3
4		

- 1986年頃のプラ研の敷地一帯。現在これらの建物は共同教育研究施設として利用されている。
- プラ研の建物は63年には本館が、64年に第一実験棟、65年に第二実験棟と徐々に増築されていくかたちとなった。写真は1963年のプラ研本部開所の際に行われた記念式典の様子。なお、この写真はプラ研の後身である核融合科学研究所に設置されている核融合アーカイブ室が所蔵しているものである。ここは核融合研究の一環として歴史的記録の体系的収集や核融合研究の歴史について研究を行うアーカイブズ組織である。
- 高温プラズマ発生装置 JIPP T-IIU。核融合反応を持続させるため、磁場を用いて何千万度もの高温で高密度のプラズマを閉じ込める実験が行われた。
- 式典に招待された参加者に贈られた花瓶。ノリタケ製で、底には記念の刻印がなされている。大学文書資料室所蔵。